

知的障害養護学校における英語教育の試行的実践

進 輝 代*・馬 場 典 博*
伊 藤 元 二*・辻 野 智 二*

A Trial Practice of English Education in the School for Mentally Handicapped Children

Teruyo SHIN, Norihiro BABA, Motoji ITOH and Tomoji TSUJINO (Received November, 1998)

As indicated in the report of the Educational Process Council, in 2002, an English education will be introduced in the school for mentally handicapped children. Hitherto the contents of the guidance and skill about English education in the school for mentally handicapped are scarcely examined. In this work, a trial practice of English education is conducted in our school for mentally handicapped. The English education is situated as one of selective learnings.

はじめに

生徒たちを取り巻く生活環境の中では英語やローマ字に接することが日常化されてきている。例えば生徒がテレビを見たり、CDなどを聴いて、口ずさむ歌に、また、食べ物や身の回りのものなど、日々の生活の中で英語やローマ字に接することが多い。すなわち、英語やローマ字を理解することは、生徒たちが生活を送る上で必要なことになってきていると言える。また、本校の生徒たちは、隣接する熊本大学の外国人留学生を見かけることもあり、彼らに関わりた、話しかけてみたいという興味・関心も伺われる。生徒たちにとって、今後、英語の基礎知識を身につけることは、生活を豊かにすると共に、社会の変化に対応できる能力の育成につながるものと考えられる。

先般提出された教育課程審議会の答申⁽¹⁾では、「知的障害者を教育する養護学校においては、国際化、情報化の進展等、社会の変化に対応し、生徒の日常生活を豊かにするとともに、卒業後の社会生活への適応を円滑に進めることができるようにする観点から、新たに選択教科として、中学校には外国語を、高等部には「外国語」及び「情報」を設けることとする。」と明示しており、平成14年度から、新しい指導要領に基づき、外国語（英語）が選択教科として導入されることになる。しかしながら知的障害者の

教育を担っている養護学校においては、初めての英語教育となるため、英語教育の指導法等についての知見は皆無であり、その指導の在り方を実践研究することは緊急かつ重要な課題であると考ええる。以上のような背景の下で本年度から、高等部で英語教育の試行的実践を行うことにした。本校では、今年度教育課程の改訂を行い、新たに選択学習の導入を試みているが、英語教育はその選択学習の一つとして位置づけることとした。選択学習とは、生徒がいくつかの学習グループの中から希望に基づき選択し、年間を2期に分けて学習するものである。「トライ！イングリッシュ」と名付けた英語学習のグループの生徒数は8名で、ほとんどの生徒にとって初めての英語学習となる。なお、この英語学習を実施するに当たっては、熊本大学の外国人留学生による授業参加も計画した。これによって、生徒が外国人に直接関わりあいをもつことができ、また、教師側にとっても助言を得る機会になるものと考えられる。

本研究は、知的障害のある生徒の特性を考慮しながら、英語や外国の人々や文化に対する関心を高め、初歩的な英語を理解し、英語で表現する意欲と態度を育てることを目的として、知的障害の養護学校における英語教育の在り方を探ろうとするものである。

研究の課題

英語教育については、中学校、高等学校では学習指導要領に示された目標、内容で指導が行われている⁽²⁾。知的障害のある生徒に英語を教える場合、従来

* 附属養護学校

の中学校、高等学校の英語教育を踏襲するのではなく、知的障害のある生徒の特性を考慮した指導内容や方法で指導することが必要である。知的障害のある生徒の特性として、抽象的な思考より、具体的な、生活に根ざした教育方法が有効であると言われている。また、時間は要するが、基礎を学び、学習を繰り返すことで、定着化することも指摘されている。それらの特性を考慮して、新しく指導内容と方法を創出

する必要がある。ここでは、次の2つの課題を設定し、研究を進めるものとする。

課題1 知的障害のある生徒の特性に応じた指導内容を精選し、英語指導項目表を創出する。

課題2 知的障害のある生徒の学習特性を把握し、指導方法を工夫する。

表1 生徒の英語学習の実態

No	学年	氏名 性別	英語学習 経 験	英語に関する生徒の実態
1	1	芝木 女	なし	英語で挨拶をする等、関心が高い。理解面では初歩的な単語は理解できる。文字の読み、書きは難しい。
2	2	柚野 男	なし	アルファベットや初歩的な単語を少し知っている。まじめな性格である。「話す」「書く」などへの関心も高い。
3	2	元永 女	中学校在籍 に時に有り	英語学習に対する関心が高く、中学校での導入時程度の知識がある。明るく積極的な性格で、歌や踊りを好む。

表2 指導計画

次	月	時間	題 材 名	題 材
1	5月	3	英語の挨拶とアルファベット	英語の挨拶 アルファベット (大文字, 小文字), 自己紹介1, 歌手の名前 (X JAPAN, speed など)
2	6月	5	外国人と英語で話そう	ケン来校 (ビデオ撮影), 自己紹介2 (I like....) 名詞, 趣味, 家族, 食べ物, スポーツ, 誕生パーティ準備, ケンの誕生日, 「トライイングリッシュ」ニュース発行
3	6月	2	学校紹介をしよう	学校の部屋や場所の名前を知る, 部屋や場所の名前を貼る。
4	7月	2	ローマ字や単語を覚えよう	ローマ字, 動物, 食べ物, ABCソング
5	7月	1	「わたしは持っている」	I have a cat. (ball, cap, CD....) (ビデオ撮影)
6	7月	2	1学期のまとめ	(英語指導項目表のチェック)
7	10月	2	1学期の復習いろいろな動作1	1学期の復習 (あいさつ, 自己紹介, 名詞) 動詞
8	10月	4	「大きい, 小さい」	(3年生は現場実習のため1, 2年生のみ) 形容詞, 名詞
9	11月	5	「何をしているの」いろいろな動作2	動詞 Let's sing! I can skate. Come here! カードゲーム, 外国人とゲームをしよう。
10	11月	3	「外国人と話そう, 遊ぼう!」	今までのまとめ, 外国人と話す, ゲームをする。

計29時間 (1単位時間は50分)

表 3 言語材料表

文	
教室英語	Stand up, please. Sit down. Look at me. Thank you. (Very) Good! Nice. Not good. Come here.
挨拶	Good morning (afternoon night evening). Good-bye. See you (next). How are you? I'm fine, thank you. And you? Nice to meet you.
主語+動詞+補語	My name is.... This is my(紹介)
主語+動詞+目的語	I like I have(I want to....)
その他	I can Let's Come here.
単語	
名詞	
数	one two three four five six eight nine ten
月,曜日	Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday January February March April May June July August September October November December
四季,天気	spring summer autumn(fall) winter fine cloudy raining
食物	fruits: orange grape grapefruit cherry apple banana strawberry lemon melon watermelon peach pineapple vegetables: potato onion lettuce carrot cucumber cabbage corn eggplant food: meat ham bacon hamburger steak soup pizza icecream salad sandwich potato chips juice sugar salt pepper butter milk cream egg jam jelly cake cookie sauce
衣類	jacket pants shirt jeans sweater dress blouse pajamas raincoat overcoat T-shirt skirt
スポーツ	baseball basketball soccer volleyball handball rugby table-tennis(ping-pong) golf
顔,体	head hair eye ear nose cheek mouth lip neck arm hand leg foot waist shoulder
動物	pig elephant panda koala monkey tiger lion leopard deer gorilla dog cat bear giraffe
花	rose tulip violet pansy carnation daisy cherry blossom lily sunflower
国	England Italy France the United States (of America) Canada China Korea Japan Australia Kazakhstan
学校の中	principal health staff lunch music craft woodcraft Saori pottey(room)gym corridor ground kitchen garden pool court stairs lavatory blackboard desk chair
趣味,夢	fishing music sport watching TV dream
仕事	singer driver teacher police officer farmer doctor nurse money
色	red pink blue yellow green purple orange brown black grey white rainbow
家族等	father mother brother sister grandfather grandmother friend man woman boy girl baby house home
歌手の名前	speed globe Kinki kids Mr. Children B'z ZARD TUBE X JAPAN SHAZNA MAX JUDY AND MARY SMAP PUFFY
形容詞	hot cold cool big little old young good bad fine nice tall fast slow happy
動詞	like have want walk run jump catch kick swim ski skate play speak read paint play sing wash clean eat drink look(at) listen(to) open shut dance study drive walk cook stand(up) sit(down) sleep get(up) cry go come clap knock touch love make work
英語の歌	
A B C の歌(Alphabet Song)	手をたたきましょう(Let Us Clap Our Hands, OK)
セブン・ステップス(Seven Steps)	聖者の行進(When The Saints Go Marching In)
十人のインディアン(Ten Little Indians)	日曜,月曜,火曜(Sunday Monday Tuesday)
ハッピー・バースディ・トゥー・ユー(Happy Birthday To You)	
ロンドン橋(London Bridge)	

指導計画

1. 生徒の実態把握

本授業の学習グループは全員で8名であるが、障害の程度が軽い生徒から重い生徒まで幅がある。本研究では対象者として、障害の程度が軽度の生徒2名、重度の生徒を1名、計3名を選んだ。その実態は表1の通りである。

2. 指導計画

指導期間は5月から11月までの予定である。表2のように指導計画を立てた。

3. 「課題1 知的障害がある生徒の特性に応じた指導内容を精選し、英語指導項目表を創出する」に対するアプローチ

(1) 指導内容の精選

指導内容は言語活動（聞く、話す、読む、書く）と言語材料とで構成する。言語材料は、文献（3～5）を参考にして、次のような観点で精選した。作成した言語材料表を表3に示す。

○言語材料は身近で初歩的な単語や文章を精選する。特に、将来にわたって実生活で必要と考えられるものや、自分や身の回りのことを表現するための言語材料を選ぶ。

○楽しみながら学習に取り組めるよう、初歩的な英語の歌を精選し取り入れる。

(2) 英語指導項目の設定

言語材料と言語活動とを検討して指導項目を設定し、英語指導項目表を作成した。表4にその結果を示す。それぞれの項目は、意欲、知識・理解、技能、態度のどの領域の向上をねらったものかを明確にして分類する。各領域では次のような観点や配慮で指導項目を設定する。

○意欲：英語を知りたい、話したいという「意欲」や、外国人や外国のことを知りたいという「関心」を大切にする。名前カードを置くとか、英語の呼名を使うなどの活動で、意欲の有無を観察する。

○知識・理解：アルファベットは活字体で大文字、小文字の順で指導する。ローマ字は50音を取り上げる。単語は、日常なじんでいるスポーツ、食物、動物などから、生徒たちが社会で生活していく上で必要であると思われるものを取り上げる。文字の導入としては、生徒がテレビやCD

等で日頃接しているSMAPなどの歌手の名前は有効と思われる。文型は主語＋動詞＋目的語または補語の簡単なものまでとする。複数形や三人称の語尾などの細かな文法事項にはこだわらず、文章を表現しようとする意欲を大切にするとする。

○技能：「話す」という音声によるコミュニケーションを中心に指導する。単語や文章を「読む」は重視しない。しかし、提示する場合、絵と英単語のあるプリントやカードで提示し、英単語が自然に目に入るように配慮する。ローマ字やアルファベットを読んだり書いたりすることは有用と考えられるので、生徒の実態を考慮しながら、「読む」「書く」を取り入れる。

○態度：学んだ英語の知識や技能を用いて、生活の様々な場面で英語を使おうとしたりさらに英語に対する関心を深めたり、外国人と積極的に関わろうとする態度を重視する。

英語指導項目表は、英語学習の当初と終了時にチェックすることにより、生徒の学習による変化を観察する。また、教師の指導方法を検討する形成的評価の資料とする。

4. 「課題2 知的障害がある生徒の学習特性を把握し、指導方法を工夫する」に対するアプローチ

指導に当たっては、生徒の学習特性を考慮しながら、次のような指導方法の工夫改善を行う。

○生徒の興味、関心を引き出し、国際理解を図るために、外国人の授業参加を計画する。

○生徒の興味を引く題材、内容の提示を工夫する。

○実体験したり体で覚えたことをよく記憶するという生徒の特性から、動作化を図る。

○ビデオやカセットテープなどの視聴覚機器を利用したり、カードなどの視覚的な教材を工夫したりする。

○賞賛や励ましをすることで、意欲を引き出し、成就感がもてるようにする。

指導の実際

生徒の実態および特性を考慮し、指導方法を工夫しながら、次のように授業を展開した。

1. 展開例1 「外国人と英語で話そう」

(1) 日時及び場所

6月5日（金） 13：15～14：15

表4 英語指導項目表

領域	番号	指導項目	言語活動の分析					生徒の変化					
			聞く・読む	理解する	書く	話す	その他	1 芝木 実施前	1 芝木 実施後	2 柚野 実施前	2 柚野 実施後	3 元永 実施前	3 元永 実施後
意欲	1	机上に名前カードを置くことができる。					*	×	△	×	○	×	○
	2	挨拶を大きな声ですることができる。				*		△	○	△	○	△	○
	3	指導者の言う英語を繰り返すことができる。				*		△	○	△	○	○	○
	4	英語の呼名（テリー等）を使うことができる。				*		×	△	△	○	△	○
	5	外国のことを知ろうとする。					*	×	△	△	○	○	○
知識・理解	6	大文字（A～Z）を読むことができる。	*					×	×	△	○	△	○
	7	小文字（a～z）を読むことができる。	*					×	×	△	○	○	○
	8	ローマ字の大文字を読むことができる。	*					×	×	△	○	△	○
	9	ローマ字の小文字を読むことができる。	*										
	10	歌手の名前（X JAPAN 等）を読むことができる。	*					×	×	×	○	△	○
	11	I, me, You, Mr., Mrs, Miss 等の意味が理解できる。 次の名詞の意味が理解できる。	*										
	12	数（1から10まで）、月、曜日、四季、食物、衣類、 スポーツ、顔、体、動物、花、国、学校の中、趣味、 仕事、色、家族等、歌手の名前	*					×	△	△	○	△	○
	13	形容詞（big, good, tall, fine...）の意味が理解できる。	*										
	14	動詞（like, go...）の意味が理解できる。	*										
	15	次の文の意味が理解できる。 挨拶（Good morning, How are you? See you...） My name is... This is... I like... I have... I can... Let's... I want to...	*					×	○	△	○	△	○
								△	○	△	○	○	○
								△	○	△	○	○	○
								△	○	△	○	○	○
技能	16	英語の歌（ABCの歌、One Little Indian 等）を歌うことができる。					*	×	△	×	△	△	○
	17	大文字（A～Z）を書くことができる。			*			×	×	△	○	△	○
	18	小文字（a～z）を書くことができる。			*			×	×	×	△	×	△
	19	ローマ字の大文字を書くことができる。			*			×	×	△	△	△	○
	20	ローマ字の小文字を書くことができる。			*			×	×	△	△	×	△
	21	I, me, You, Mr, Mrs, Miss 等の意味を理解して言える。 次の単語を英語で言うことができる。 数（1から10まで）、月、曜日、四季、食物、衣類、 スポーツ、顔、体、動物、花、国、学校の中、趣味、 仕事、色、家族等、歌手の名前				*							
	22					*		×	△	△	○	△	○
	23	形容詞（big, good, tall, fine...）の意味を理解して言うことができる。				*							
	24	動詞（like, go...）の意味を理解して言うことができる。				*							
	25	次の文の意味を理解して言うことができる。 挨拶（Good morning, How are you? See you...） My name is... This is... I like... I have... I can... Let's... I want to...				*		×	△	×	○	△	○
								×	○	×	○	○	○
								×	△	×	○	×	○
								×	△	×	○	×	○
態度	26	身の回りのローマ字や英語を理解し使おうとする。					*	×	×	△	○	△	○
	27	自宅で学習してきて、ノートを提出する。					*	×	×	×	○	×	○
	28	外国の人に関わろうとする。					*	×	○	△	○	△	○
	29	英語を交えて外国の人と話そうとする。					*	×	△	×	○	△	○

※言語活動の分析は、各項目が言語活動のどの分野に当たるかを示す。

※生徒の変化の評価基準 ×・・・できない △・・・半分程度できる ○・・・できる 空欄は実施していない

高等部1年教室

(2) 外国人講師 カザフスタンからの留学生キネサリ (通称ケン)

(3) 展開 授業の展開を表5のように行った。

(4) 指導の工夫「意欲の工夫」

○ケンにはできるだけ日本語で話してもらうように依頼し、外国人と初めて接する心理的プレッシャーを軽減するよう配慮した。

○作業学習の各教室を案内し、生徒たちが自分の得意なことや作品について、積極的に話しかけようとする場面を設定した。

○好きな音楽、スポーツをお互いに述べさせることで、共通の話題で身近に接することのできる状況を設定した。

(5) 生徒の反応

芝木：初めのうちは他の生徒とケンの様子を見ていただけだったが、ケンの好きな音楽がPuffyの歌ということが分かり、「パフィ

ー、わたしも大好き」と言って、積極的に歌の話題で話しかけ始めた。

柚野：さおりの部屋に案内すると「これは僕が織ったんだよ」と得意気に話し、織り方を説明し始めた。

元永：“How are you?” と話しかけると、ケンが“I’m fine, thank you.” と答える。自分が言ったことが通じた喜びから、積極的に話し始めた。

2. 展開例2「学校紹介の練習をしよう」

(1) 期日および場所

6月25日(木)、26日(金)、30日(火)

校内の各教室及び施設等

(2) 展開 授業の展開を表6のように行った。

(3) 指導の工夫

○視覚的な配慮……英語表示プレート(日本語表示付き)を各教室に貼り、その場で練習を行っ

表5 「外国人と英語で話そう」展開

学 習 活 動	言 語 材 料
1 挨拶	Good afternoon. How are you?
2 紹介・ケンの自己紹介 ・生徒がケンに自己紹介	I'm fine, thank you. And you?
3 カザフスタンの紹介(地図、カード使用) ・ケン 黒板に地図を書いて説明	My name is... Nice to meet you.
4 質問と応答 ・生徒の質問にケンが答える。 カザフスタンはどんなところですか? 家族は? 誕生日は? カザフスタンでは今何時ですか? 趣味は何ですか? スポーツは何が好きですか? ・ケンの質問に対し生徒が好きなことを答える。	My name is... Nice to meet you.
5 学校案内 ・高等部校舎、特に作業学習の部屋を案内する。 ・作業班の作品をプレゼントとして渡す。	plane. cold, sister, father, mother, basketball, flag, baseball, music, fishing, birthday, I like music.
6 次時の予告と挨拶	Good bye. See you next.

表6 「学校紹介の練習をしよう」展開

学 習 活 動	言 語 材 料
1 校内の各部屋を This is a gym. 等と紹介する。	This is a gym.
2 各部屋の英語表示プレート(日本語表記付き)を用意し各部屋へ行って貼ると同時に This is a gym. などを練習する。	principal, health, staff, lunch, music craft, woodcraft, Saori, pottery(room)gym, corridor, ground, kitchen, garden, pool, court, stairs, lavatory

た。

○意味づけした学習を図る……「ここにはプリンが好きなプリンシパル（校長先生）がいらっしゃる」などの表現で単語に意味をもたせて記憶化を図った。

○動作を伴った学習を図る……両手で前を押さえて「ラバトリー、ラバトリー（トイレ）」など、動作を伴った表現を用いた。

○記憶の定着化を図る……廊下の掲示板に単語一覧表の提示をし、日常的に確認できるようにした。

(4) 生徒の反応

芝本：『ラバトリー』の仕草がおもしろかったのか、後日トイレに行く際、動作を模倣しながら「ラバトリー、ラバトリー」と表現した。

柚野：「ここは走ってはいけない、コーリダー（廊下）」の表現がおもしろかったようで、体育館、中庭など、きちんと記憶できた。

元永：友達と単語一覧を見ながら「教室は何という？」などの確認をしていた。

指導結果及び考察

1. 指導結果

(1) 英語指導項目表から見た指導結果

今回作成した英語指導項目表を使って、5月当初

と7月に評価を行った。対象生徒3名について、以下のような変化が見られた。

○柴木は、変化した項目は少ないが、「意欲」面や簡単な名詞の理解、英語の挨拶や自己紹介で伸びが見られた。技能面の「文字を書く」はできなかったが、「話す」は意欲的であった。

○柚野は英語学習の経験がなかったが、ほとんどの項目で伸びが見られた。「意欲」「知識・理解」「態度」面は、すべて「できる」になった。「書く」は指導項目の約2分の1程が「できる」になった。

○元永は、英語学習の経験があり、「知識・理解」「技能」共、最初から指導項目の2分の1程は知っており、「話す」ことができていた。今回の学習により知識・理解、技能面で自信がつき、意欲、態度面に一層の向上があった。

(2) 生徒に対するアンケート結果

英語の授業に対する生徒からの感想を得るために、アンケート調査を行い、表7に示すような結果を得た。

それを要約すると次のようになる。

○生徒は「トライ！イングリッシュ」の授業が好きで、その理由は、「楽しい」が一番多く、次に「外国の人と話せる」「将来必要である」が同数ある。

○「トライ！イングリッシュ」の授業のわかりや

表7 「トライ！イングリッシュ」についてのアンケート結果

実施期日：平成10年9月 対象者数：8名

1 トライ！イングリッシュの授業は好きですか。

はい8名 いいえ0名

「好き」と答えた人はその理由を教えてください。（複数回答可）

・楽しいから 4名

・外国人と話したいから 2名

・社会人になったときに必要だから 2名

2 トライ！イングリッシュの授業は分かりやすいですか。

分かりやすい 2名 普通 6名 むずかしい 0名

3 トライ！イングリッシュの時間にどのような勉強をしたいと思いますか。（複数回答可）

・外国人との授業 6名

・歌 3名 （「ABCの歌」のような歌）

・ビデオ 1名 （「英語で遊ぼう」のようなビデオ）

4 トライ！イングリッシュの時間の感想や希望はありませんか。

・英語の勉強をしたら外国人になったみたいです。

・アメリカに行ってみたい。

・いろんなことを英語で勉強したいです。

・難しい英語を勉強したいです。

・楽しい（2名）

すさは「普通」が一番多い。

○「トライ！イシグリッシュ」の時間には外国人と一緒に勉強することを希望している。「歌」「ビデオ」を希望する生徒も数名いる。

○感想からは、外国人と話すことに喜びを感じ、さらに英語を学びたいと希望していることが伺える。

(3) 学習後の生徒の様子

生徒たちは朝“Good morning!”, 下校時には“See you!”と挨拶をしていく。また、英語の時間の後、友達に英語で話しかけている。英語を話すことへのためらいや遠慮がなく「私も英語を話している」という、新しいことを学ぶ喜びと意欲が感じられる。また、英語のカセットテープをダビングして欲しいと申し出た生徒、英語の歌のCDを持ってきた生徒、ケンに誕生日のプレゼントを自分から買ってきた生徒などがいた。これは、英語を学びたい、外国の人や文化に接したいという態度が形成されつつあるものと考えられる。

2. 考 察

(1) 課題1についての考察

本研究では、知的障害のある生徒の特性に応じた指導内容の精選をし、言語材料表と英語指導項目表を作成した。指導内容の精選では、「英語を話したい」「外国人と関わろう」という意欲、態度面を重視し、知識・理解および技能面は、初歩的で、生徒の生活に必要なと考えられるものを取り上げた。これは、指導結果にあるように、知的障害のある生徒の英語学習には有効であった。しかし、言語材料、特に単語の数が多すぎて、今回の授業回数の中では指導できないものがあつた。また、単語を学習した後、応用して3語文、4語文の中で言えるまでには、更に時間が必要と思われる。

(2) 課題2についての考察

指導実践を通して、次のように考察される。

○外国人の授業参加に生徒は大きな興味、関心を示し、積極的に関わろうとするなど、効果的で

あつた。

○興味をもち、意味付けされた事項はよく記憶できた。

○動作を伴った表現はよく記憶できた。

○視覚的な教材（カード、ビデオ）は記憶上有効であった。

○賞賛や励ましをすることで、重度の生徒も意欲的に学習に取り組めた。

まとめと今後の課題

英語教育を初めて試行的に導入したが、知的障害がある生徒においても、指導内容と指導方法を創意工夫することによって英語学習が可能であることが、実践を通して確認された。英語学習は、単なる教科としての学習にとどまらず、これからの社会に生きていく上での、基礎的な生きる力、国際理解への導入学習として、重要な意義を持つものであると考える。

今後の課題として、外国人の授業参加を更に多くしていくこと、また、興味・関心を引き出すよう、歌やゲームの導入について、発達にみあったビデオの活用などを検討する必要がある。指導内容では、名詞や文章などの言語材料を、生徒の興味関心に沿って精選し、言語材料表や英語指導項目表を改善し、それらの成果を今後の英語学習に応用・発展させ、さらに授業実践を推進していく予定である。

参 考 文 献

- 1) 文部省：幼稚園、小学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について、教育課程審議会答申、1998。
- 2) 文部省：中学校学習指導要領 外国語 英語編、教育出版株式会社、1989。
- 3) 和田琴美：ママと一緒に英語でワオーツ！、主婦の友社、1995。
- 4) 高橋廣雄、高橋正夫、Carl R. Adams：教室英語活用事典、研究社出版、1992。
- 5) マークス寿子：爆弾的英語教育革命論、草思社、1995。